

令和2年度 新潟県立阿賀黎明高等学校 第2回 学校運営協議会 議事録

1 日時  
令和2年9月28日(月) 13時30分～15時30分

2 会場  
県立阿賀黎明高等学校 多目的ホール

3 参加者  
委員7人(欠席者なし)  
(オブザーバー参加)



- ・阿賀黎明高校魅力化プロジェクト関係者5人
- ・阿賀黎明探究パートナーズ関係者4人
- ・阿賀黎明高等学校教職員8人

計24人

(参加者氏名等一覧)

(1) 学校運営協議会委員

氏名	所属・役職など	所属部会など
清野 一男	前阿賀町教育委員会教育長	会長、評価部会
遠藤 佐	阿賀町教育委員会教育長	副会長、評価部会
稲生 一徳	阿賀町立阿賀津川中学校長	評価部会
齋藤 俊太郎	麒麟山酒造株式会社 代表取締役社長	地域協働部会
猪俣 一成	株式会社巴山組 専務取締役	地域協働部会
石川 英理香	県立阿賀黎明高等学校PTA会長	評価部会
平山 剛	県立阿賀黎明高等学校長	地域協働部会

(2) 阿賀黎明高校魅力化プロジェクト

氏名	所属・役職など
清野 郁男	阿賀町教育委員会 学校教育課長
西田 卓司	阿賀町教育委員会 学校教育課 黎明学舎 塾長
丹羽 貴一	阿賀町教育委員会 学校教育課 黎明学舎 スタッフ
波多野 彩佳	阿賀町教育委員会 学校教育課 黎明学舎 スタッフ
及川 真央	阿賀町教育委員会 学校教育課 黎明学舎 スタッフ

(3) 阿賀黎明探究パートナーズ

役職	氏名	所属・役職など
副会長	清田 周	阿賀町社会教育委員
理事	宮澤 直子	阿賀町議会議員
監事	清野 義昭	室谷区長
会員	角野 仁美	NPO法人みらいずworks スタッフ

(4) 阿賀黎明高等学校教職員

職名	氏名	備考
教頭	尾上 博司	学校運営協議会事務局長
教諭	大滝 雅代	コミュニティ・スクール推進委員長、国語科
教諭	松本 由美子	生徒指導主事、保健体育科
教諭	佐藤 真	進路指導主事、数学科
教諭	松永 昌範	2学年主任、教務部、数学科
教諭	高橋 裕	NEINシステム運用主任、数学科
教諭	池端 芳郎	特別支援教育コーディネーター、理科
教諭	吉田 紀夫	進路指導部、外国語(英語)科

4 次第及び発言の概要

(1) 開会 (13:30~13:45)

ア 会長の挨拶

- 阿賀黎明高校、黎明学舎及び阿賀町教育委員会の活動に敬意を表する。
- 学校と地域が実際に会って語り合い、そして一緒に活動し、成果を生んでいくという大事な会である。
- コミュニティ・スクールについて、(阿賀町では) 高校が先行して実施したので、これを参考に小中学校はスムーズに導入できる。
- 阿賀町では保・小・中・高の連携として「阿賀町の15年教育」という計画があるが、高校の教育内容を踏まえて、中学校、小学校の教育内容を検討すべき。連携した姿を具体的に話し合う時間が取れるのではないか。
- 高校生が学校と地域を盛り上げていくことを通じて、町が元気になっていくことが大事だ。
- (コミュニティ・スクールの導入は、) 阿賀町を支えるだけでなく、もっと広いところで活躍する生徒を育成する点で意味がある。
- 皆さんの力をお借りして、高校のために、阿賀町のために頑張っていきたい。

イ 阿賀黎明高等学校長の挨拶

- 阿賀町、阿賀町教育委員会、並びに地域の皆様方からの本校への支援に感謝申し上げます。
- 9月7日に県から報道発表があったとおり、令和3年度の本校の募集学級は1学級の募集となる。
- また、令和4年度からは「地域探究コース」が設置されることになる。
- これらの状況を踏まえ本校の魅力化を一層進め、生徒募集を行うとともに、本校においてどのような人材を育成し、何を学ばせるかということを確認にし、教育活動を行っていく必要がある。

(2) 状況報告 (13:45~13:50)

ア 令和3年度の募集学級

令和2年9月7日に「令和3年度県立高等学校等募集学級計画(案)」が示され、令和3年度の阿賀黎明高等学校の募集学級は1学級であることが公表された。

イ 生徒募集

① 中学校訪問

校長が阿賀町、五泉市、阿賀野市のすべての中学校及び旧新津市内の3つの中学校を訪問し、当校の教育活動、令和3年度の「阿賀町教育留学制度」及び黎明学舎作成の「あつまれたんきゅうの森」について説明した。

② 阿賀町立阿賀津川中学校3年生に対する学校説明

6月22日(月)、阿賀津川中学校3年生を迎え、学校の様子について説明した。

③ 体験入学

9月9日(水)午後、阿賀津川中学校3人、村松桜中学校2人、田上中学校1人が参加した。

④ 「地域みらい留学フェスタ」への参加

7月からオンライン説明会が始まり、これまでに8つの家庭が阿賀町を訪れ、学校、寮の予定地並びに阿賀町の様々な施設を見学した。

ウ 授業における地域との連携

キャリア教育、体験活動、「ふるさとCM大賞」に関する取組において、阿賀町の皆様方から御協力をいただいた。



(新潟県の市町村が自らをPRする30秒の動画をテレビ局に提供し、その出来映えを競い合う。)

(質疑応答)

(会長)

- 三川中学校に対する説明会の予定について。

(委員：阿賀黎明高等学校長)

- 10月5日(月)に三川中学校に行って説明する。将来、三川中学校と連携し、本校職員を三川中学校に派遣して指導するということについて意見を頂戴したい。現在は、本校職員が阿賀津川中学校(週に1時間、全学年対象)を訪問し、英語の授業を行っている。

(会長)

- 三川中学校の保護者の中で、「(三川中学校で)地域学習にもっと取り組んで欲しい。」という声がある。機会があれば阿賀黎明高校の取組を説明し、連携して取り組んでいくことが必要である。三川中学校の生徒も大事な阿賀町の子どもであり、地域を支える人材であるから、阿賀黎明高校に入学してもらうことも大事だと思う。

(委員：阿賀黎明高等学校長)

- 三川中学校の校長と何度か会って当校の教育活動について説明をしたり、学校案内を渡したりしている。部活動の連携について話をした。引き続き、三川中学校に対し阿賀黎明高校の活動を発信していきたい。

(3) 承認事項 (13:50~14:10)

ア 前回承認された、「求める生徒像」の確認

イ アの「求める生徒像」の実現に向けた、(資料1) 令和4年度入学生の教育課程(学習する教科・科目)についての協議

※ 求める生徒像

- ① 地域を知ることを通じて、学ぶ姿勢を身につけ、自ら進路を切り開く生徒
- ② 教養を高め、人間性を磨くことを心がけ、人のために尽くす志をもつ生徒
- ③ 学ぶことに意義を感じ、未知のものに勇気をもって向き合おうとする生徒

(委員：阿賀黎明高等学校長による説明の概要)

- 令和4年度から地域探究コースが設置されることとなる。普通科において、地域探究を深めていくこととする。
- 令和4年度の1年生から(資料1の教育課程表にある)教科・科目を学んでいく予定としている。教育課程委員会では、教養学類、人文学類、看護学類、理工学類に分けた教育課程案を検討している。
- 「地域探究コース」の教養学類における「地域学Ⅰ」及び「地域学Ⅱ」で2単位ずつ学習することを想定している。大学等への進学のための学類については、「地域学」を履修させることは今のところ予定していない。大学等進学のための学類の生徒たちは「総合的な探究の時間」において「阿賀学」を学習させる予定である。
- 阿賀黎明高校での「阿賀学」の学習が阿賀町が策定した「15年教育」の最終段階であるならば、高校での3年間で「阿賀学」において何を学ばせるかということを考える必要がある。
- 教養学類の生徒に「地域学」で何を学ばせればいいのか、また、大学等進学のための学類の生徒たちに何を学ばせればいいのか。求められる生徒像に近づけるためにどういう学習が可能であるか、さらに、どういう支援がいただけるかについて意見をいただきたい。

(質疑応答)

(会長)

- 教養学類の「地域学Ⅰ」及び「地域学Ⅱ」についてのことではなくて、「総合的な探究の時間」における連携の在り方について意見をいただくということではよいか。

(委員：阿賀黎明高等学校長)

- 地域からいただける支援について教科・科目を問わず意見をいただきたい。「阿賀学」は「総合的な探究の時間」に行っている。学年に応じてどういう支援をいただけるのか、あるいはそれぞれの学年で学ばせるかということについて意見を聞きたい。

(会長)

- 「地域学」については、大学等への進学を希望する生徒に履修させないという、学校の考え方についてご意見があれば聞きたい。

(委員：麒麟山酒造株式会社 代表取締役社長)

- 「地域学」は教養学類、「阿賀学」は「総合的な探究の時間」で行うことでよいか。

(委員：阿賀黎明高等学校長)

- 現段階では、そのとおりである。「阿賀学」は大学等への進学のための学類における「総合的な探究の時間」で行う予定である。

(委員：阿賀町立阿賀津川中学校長)

- 高校では、場合によっては（「地域学」、「阿賀学」を）、授業を連続させるなど、集中的に学習ができるのか。

(委員：阿賀黎明高等学校長)

- 時間変更をして活動させることは可能である。

(委員：麒麟山酒造株式会社 代表取締役社長)

- 「阿賀学」で求める授業内容は何か。具体的に教えてもらいたい。

(委員：阿賀黎明高等学校長)

- 阿賀町で示している「阿賀町の15年教育」の中で（阿賀学の内容が）様々示されているが、その中にあるものを網羅的に学習させていたというのが実態である。高校生は、小学校、中学校で学習したことをより深化させる必要があると考えている。様々な資料や文献を調べることができるし、小中で学習したことを別な角度から深めていくということもできるのではないかと思う。これまでに学習した内容を体系的にまとめたものはない。それが課題である。

(委員：株式会社巴山組 専務取締役)

- 「阿賀町の15年教育」の中で、何を目指してやってきたか。「地域学」と「阿賀学」の違いは何か。

(会長)

- 求める生徒像の①に直結していることが今までの（「阿賀学」や「地域学」に）あった。求める生徒像の②のように仕事（職業）にこだわらなくていいのではないか。（現在の）「阿賀町の15年教育」はたたき台でしかなく、それをどういうものにするかは、阿賀黎明高校が実践している内容を、中学校、小学校へとつなげていくことが大事である。小・中でやったことをレベルアップした取組も考えられるのではないか。

(副会長)

- 「総合的な探究の時間」では阿賀町について、個々に（探究テーマを設定して）調べていくことになると思う。その中で阿賀町を将来どうしたらよいか考えるのが「阿賀学」であろう。
- 「地域学」は、阿賀町の中で自分はどうしたらよいか考えていくのがテーマになるのだと思う。大学等への進学を目指す生徒が（「地域学」を）全く学習しないのはどうかと思う。
- （「阿賀町の15年教育」における）阿賀学はまだ、概念的なもので、これから小中高でどういったことを学習するのかが、まだ固まっていない。完成されたものではない。各学校の先生に集まってもらった中で、考えてもらおうと思っている。

- 高校で取り組む「阿賀学」は、個々で、あるいはグループで探究を深めた中で阿賀町はこれからどういうふうに進んでいくのだろうということを考えていくものである。

(委員：株式会社巴山組 専務取締役)

- 2、3年生で「地域学」は遅いのではないか。1年生からはできないのか。

(委員：阿賀黎明高等学校長)

- 地域について学んだ上で、どこに行っても活躍できる人材を育てたいと考えている。

(会長)

- それは地域を知ることを通じてということだと思う。
- 「地域学」を2年生及び3年生で取り組むということは遅いのではないかという意見がありましたが、「地域学」を3年間を通じて学習するという案もあるのではないかということです。

(委員：PTA会長)

- 最終的な目標は大学に進学することではなくて、その後、親元を離れて仕事を持つことが最終的な目標だと思っている。その中で、進学しても阿賀町に戻ってきてもらいたい。
- 阿賀町のいいところを知らずに、(子どもに)戻ってきてもらいたいと望んでも、それは難しいと思う。高校で阿賀町のいいところを学ぶというのはとてもいいことで、町外と比較することで、阿賀町の良いことをより深く知ることができる。
- 私たち親が、阿賀町のいいところについて、教えられることは限られている。「阿賀町と他の市町村を比べて、ここがいい。将来は阿賀町に住んで仕事をしよう。」と思える子どもに育ててほしい。そういうことを教える「阿賀学」であってほしい。

#### (4) 熟議 (14:10~15:20)

令和4年度入学生の教育課程における具体的な連携について、オブザーバーを交えて熟議した。



#### (5) 閉会 (15:20~15:30)

副会長の挨拶

(内容)

- 学ぶということは、高校や大学で終わることではなく、生涯続けるものだと思っている。
- 高校での学習はどういうふう学ぶのかを知る段階であると考えている。
- 「阿賀町の15年教育」における阿賀学について、何を学ぶのかを再構築する時期に来たと思っている。(阿賀町教育委員会で)取り組んでいくことになると考えている。

資料 1

新潟県立阿賀黎明高等学校 令和4年度入学生 教育課程表（普通科 地域探究コース）（案）

令和2年9月28日

教育課程委員会

教科	科目	標準	就職又は 専門学校進学				大学等進学											
			教養学類				人文学類				看護学類				理工学類			
			1	2	3	合計	1	2	3	合計	1	2	3	合計	1	2	3	合計
国語	<b>現代の国語</b>	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	言語文化	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	論理国語	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4
	文学国語	4		2	2	4			4	4				0				0
	古典探究	4				0		2	3	5		2	3	5		2	2	4
地理歴史	<b>地理総合</b>	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	地理探究	3				0				0				0			3	3
	<b>歴史総合</b>	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	日本史探究	3				0		2	2	4		2	2	4				0
公民	<b>公共</b>	2		2		2		2		2		2		2		2		2
	倫理	2				0			2	2				0				0
	政治・経済	2			2	2			2	2			2	2				0
数学	<b>数学Ⅰ</b>	3	3			3	3			3	3			3	3			3
	数学Ⅱ	4		2	2	4		2	3	5		2	3	5		4		4
	数学Ⅲ	3				0				0				0			3	3
	数学A	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	数学B	2				0		2		2		2		2		2		2
	数学C	2				0				0				0			2	2
理科	<b>科学と人間生活</b>	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	物理基礎	2				0				0				0		2		2
	物理	4				0				0				0			4	4
	<b>化学基礎</b>	2		2		2		2		2		2		2		2		2
	化学	4				0				0			4	4			4	4
	生物基礎	2			2	2		2		2		2		2				0
	生物	4				0				0			4	4				0
	理科総合（学校設定科目）	2				0			2	2				0				0
保健体育	<b>体育</b>	7~8	3	3	2	8	3	3	2	8	3	3	2	8	3	3	2	8
	保健	2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1	1		2
芸術	<b>美術Ⅰ</b>	2		2		2		2		2		2		2		2		2
外国語	<b>英語コミュニケーションⅠ</b>	3	3			3	3			3	3			3	3			3
	英語コミュニケーションⅡ	4		2	2	4		4		4		4		4		4		4
	英語コミュニケーションⅢ	4				0			4	4			4	4			4	4
	論理・表現Ⅰ	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	論理・表現Ⅱ	2			2	2		2		2		2		2		2		2
	論理・表現Ⅲ	2				0			2	2			2	2			2	2
家庭	<b>家庭基礎</b>	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	家庭総合	4				0				0				0				0
情報	<b>情報Ⅰ</b>	2	2			2	2			2	2			2	2			2
商業	ビジネス基礎	2~4		3		3				0				0				0
	ビジネス・コミュニケーション	2~4			3	3				0				0				0
	観光ビジネス	2~4			3	3				0				0				0
	ソフトウェア活用	2~6		3		3				0				0				0
	ネットワーク活用	2~4			2	2				0				0				0
家庭	フードデザイン	2~6		2		2				0				0				0
	保育基礎	2~6			2	2				0				0				0
地域学	地域学Ⅰ（学校設定科目）	2		2		2				0				0				0
	地域学Ⅱ（学校設定科目）	2			2	2				0				0				0
	総合的な探究の時間	3~6	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
	特別活動（ホームルーム）		1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
	合計		30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	90

※ 斜体太字は必履修科目